

第1学年音楽科学習指導案（略案）

○組 計40人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 いろいろながつきで
教材 「こいぬの マーチ」 久野静夫作詞 外国曲（本時主教材）
◎「もりの すいしゃ」 アイレンベルク作曲

2 本時（6/7）

(1) 目標

- ア 音量に気を付けて、それぞれの楽器を演奏することができる。【知識及び技能】
イ 子犬の様子が表れるように、それぞれの楽器の音量のバランスを工夫することができる。

(2) 本時の展開に当たって

【思考力、判断力、表現力等】

子供たちがそれぞれの楽器の音量を工夫することができるようにするために「けんばん犬」と「だがつき犬」の大きさを変えた挿絵を2種類準備し、音量と子犬のイメージとを結び付けながら演奏できるような手立てを取るようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	○教師の具体的な働きかけ ※評価規準【方法】 □具体的な子どもの姿
課題把握	1 「こいぬのマーチ」の伴奏に合わせて、打楽器を演奏する。 2 二通りの「こいぬのマーチ」の節奏を聴き、本時のめあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かわいい子犬の感じが出るように、がっそうしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目は、大きな犬がどしどし歩いているようだ。 ・ 2回目は、小さくてかわいい子犬の感じが出ていたよ。 	10	○ かわいい子犬の感じをイメージできるようにするために、音量のバランスに気を付けた範奏と、そうでない範奏とを聴き比べる活動を取り入れる。 →要素に着目して構想する力 ○ かわいい子犬の感じを出すことができるようにするために、それぞれの楽器の演奏の仕方や音量といった、前時までに学習したことを想起させるようにする。 →イメージを膨らませる力 ※◎子犬のかわいい感じが出るように、音量を工夫している。【観察】 □（ハ）1つ1つの音を短く演奏している □（鉄）気持ちを込めた叩き方をしている □（打）大きくなならないように拍の流れにのって鳴らしている
課題追求	3 楽器を交代しながら、全部の楽器をひととおり練習する。 4 5人ずつで演奏し、相互に発表・鑑賞し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かわいい子犬の感じがよく出ていました。 ・ 鍵盤ハーモニカは音を切って、じょうずに演奏していました。 ・ 打楽器がもう少し小さい方がいいと思いました。 	30	△ うまく演奏の工夫のできていない子どもには、机間指導を通して個に応じた助言をする。 ○ 子供たち同士での学び合いが活発に行えるようにするために、他の班の合奏を聴いて友達のよかった点や、さらに工夫したらよくなる点を発表させるようにする。 →表現を吟味する力 ※◎音量に気を付けて、それぞれの楽器を演奏することができる。【演奏発表、観察】 □かわいい子犬の様子がよく表れている □音量に気を付け、バランスがとれている □拍の流れにのろうと、体を動かしたりしている
まとめ	5 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の大きさに気を付けて楽器をたたくことができました（打）。 ・ 打楽器が入ると楽しい感じになりました。 	5	△ うまく音量の加減のできていない子どもには、大きさを変えた2枚の挿絵を提示し「今の演奏はどちらの犬だったかな」と問いかね、イメージから音量に気付かせるようにする。 ○ 本時で学んだ演奏の工夫や拍の流れにのって演奏する技能を次時のまとめの合奏に生かすことができるようにするために、本時でできたことや楽しかったことなどを発表させるようにする。